

鋼材に関する試験について

■ 試験を依頼する際の注意事項

- ・引張試験における試験片の長さについては、下表の長さ以上かつ機械式継手供試体及びフレア溶接供試体は全長が1,200mm以内としてください。
- ・曲げ試験における試験片の長さについては、長さ±1cm程度としてください。
- ・圧接、溶接、機械式継手は継手が試験片の中心となるようにしてください。
- ・曲げ試験の鉄筋供試体は、SD345以下まで試験が可能です。

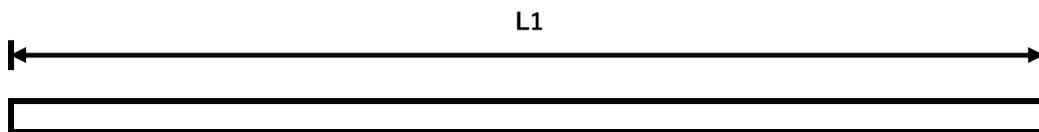
単位：mm

試料名称	生材（継手なし）		継手あり（引張試験）		フレア溶接（L4）
	引張試験（L1）	曲げ試験（L1）	圧接・溶接（L2）	片側の長さ（L3）	
D4	400	—	500	200	300以上
D5	400	—	500	200	300以上
D6	400	—	500	200	300以上
D8	400	—	500	200	300以上
D10	500	250	500	200	300以上
D13	500	300	500	250	300以上
D16	500	300	500	250	300以上
D19	600	300	600	250	300以上
D22	600	300	600	250	300以上
D25	600	330	600	300	300以上
D29	600	350	600	300	300以上
D32	600	380	600	350	300以上
D35	650	400	650	350	300以上
D38	650	420	650	350	300以上
D41	650	450	650	350	300以上
D51（SD295A/B）	700	500	700	400	300以上
D51（SD345）	700	600	700	400	300以上

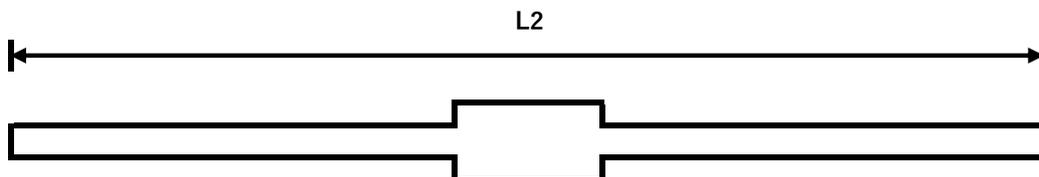
・2ページ目には試験片形状図がありますので、そちらもご確認ください。

■ 試験片形状図

1. 生材供試体



2. 圧接・溶接供試体



3. 機械式継手供試体

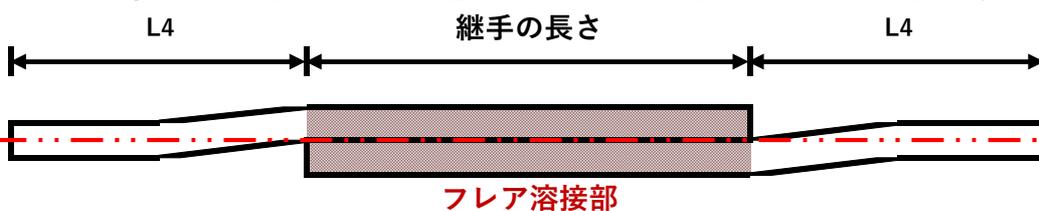


4. フレア溶接 D4～D22



5. フレア溶接 D25～D51

- ・加工例① フレア溶接の中心線が左右の鉄筋の中心を通るようにしてください。



- ・加工例② つかみ部分が同一直線上となるように加工してください。

